

公表

こども発達センターみはら園における自己評価結果

事業所名	富士市立こども発達センターみはら園
------	-------------------

公表日 令和7年 11月 28日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が子どもの過ごすスペースとの関係で適切であるか。	✓		定員60名、各クラス10人の編成でも基準内で余裕があります。	
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	✓		定員60人では直接処遇職員は15人が必要最低人数ですが、看護師を含め、クラス担任として23人配置しています。	
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	✓		生活の流れに合わせて机のレイアウトを変えるなど、子どもが見て分かりやすいクラス環境作りを考えています。エレベーター・玄関スロープ・自動ドア等の設備を備えています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	✓		毎日保育終了後に清掃をしています。また、委託業者が、職員では行き届かない場所の清掃を週3回行っています。	
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	✓		遊戯室や個別室などを必要に応じて使用できるようにしています。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	✓		業務KYTを実施したり、市職員の改善チャレンジに参画しています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	✓		保護者向け評価を実施し、その結果を基に、業務改善を行うように努力しています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	✓		自己評価でクラスの意見を聞いたり、個人面談で職員一人一人の意見を聞く機会を設け、検討課題については、会議で意見を出し合っています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	✓		昨年度より、自己評価や保護者向け評価をまとめる際に、第三者の方にご意見を頂き、業務改善に努めています。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や職場内等で研修を開催する機会が確保されているか。	✓		毎月職場内で職員研修を行うと共に、外部研修に参加しています。また外部研修に参加した職員による伝達研修を行い、職員全員が学べるようにしています。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	✓		市のウェブサイトで公表していることを保護者総会の場で伝え、園内廊下に掲示しています。	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成しているか。	✓		6か月ごとにアセスメントを実施し、支援計画作成に活かしています。	
	13	個別支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	✓		クラスカンファに児童発達支援管理責任者も加わり、客観的な意見を交えて、子どもの現状に合った支援計画になるように作成しています。	
	14	個別支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	✓		クラスカンファで、子どもへの支援の経過を確認しています。	

	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	✓		園で共通のアセスメントシートを使用するとともに、アセスメントを行う際には家庭の様子も聞き取り、園と家庭両方の姿を確認しています。	
	16	個別支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	✓		R6年10月より、新しい児童発達支援ガイドラインに則った個別支援計画に書式を変更しました。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	✓		職員会議で園全体の活動を立案し、クラスカンファでクラス内の活動を立案しています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	✓		職員会議の中で日課や遊びの見直しを行い、今年度は運動遊びを重点的に工夫しています。	
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて個別支援計画を作成し、支援が行われているか。	✓		個々に応じて、個別室を使用した活動や少人数での活動を計画し、支援しています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	✓		朝クラス内で打ち合わせをするとともに、園庭や遊戯室などの共有スペースの使い方について全体で確認し、1日の支援内容を職員全員で考えています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	✓		保育終了後に、1日の子どもの様子を伝え合い、緊急で検討するがあれば、園長に報告したうえで職員全員で情報共有しています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	✓		毎日個々の様子を記録しています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	✓		9月と3月にモニタリングを実施し、保護者とともに支援計画について検討しています。	
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	✓		担任や児童発達支援管理責任者が参画しています。必要に応じて園長も加わっています。	
関係機関や保護者との連携	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	✓		医療的ケア児の対応や他機関と連携が必要な場合には支援会議等を開催したり、情報交換を行い連携して支援を行っています。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	✓		今年度併行通園利用希望者はいませんでしたが、体制は整えています。また、保育園や幼稚園に移行した子どもに対しては、保育所等訪問支援や地域支援を行い、継続した支援ができるようにしています。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	✓		保護者の了解を得たうえで、支援計画等の資料を基に引継ぎを行っています。	
	28	地域の障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	✓		取組としては少ないですが、他事業所と併用している子どもへの支援について、情報共有をする場を設けて連携を図っています。	必要に応じて、相談支援事業所や他の障害児通所支援事業所と連携を続けるように引き続き努力していきます。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	✓		外部研修に参加し、支援の質の向上を図っています。	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	✓		自立支援協議会のこども支援連絡会等に参加しています。	

	31	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	✓		地域の保育園の年長児と年に2回交流保育を実施しています。また、地域の保育園等で親子で遊ぶ親子参加保育を実施し、希望者が参加しています。	
	32	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	✓		子どもの様子については、送迎時に伝えたり、生活表に記載して伝え合っています。また、毎月1回面談を実施しています。	
	33	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	✓		保護者グループワークを実施し、様々なテーマについて研修の機会を設けています。	
保護者への説明等	34	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	✓		重要事項説明書、利用者負担等については、入園説明会で説明しています。また入園後に保護者総会で運営方針について説明しています。	支援プログラムについては、R6.10月に作成し、市のウェブサイトで公表しています。
	35	個別支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	✓		面談で保護者の願いを聞き取り、支援計画作成に反映させています。	言葉で伝えられない子どもの意向をどのように捉えるかは難しいですが、できるだけ子どもの姿から思いを汲み取り、保護者の意向に偏らない支援内容を設定していくように努力しています。
	36	「個別支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から個別支援計画の同意を得ているか。	✓		児童発達支援管理責任者が個別支援計画について保護者に説明をしたうえで、同意を得ています。	
	37	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	✓		毎月面談を実施しています。必要に応じて普段面談に来ていない方（父親等）との面談も実施しています。	
	38	保護者会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	✓		保護者会活動を担当職員が支援したり、保護者同士で交流する機会としてマザータイムを実施しています。きょうだい支援は、R7.2月に講演会を実施し、今年度は保護者座談会の中で実施しています。	きょうだい支援については、今後は行事等できょうだい児が参加できる工夫を検討していきます。
	39	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	✓		相談や申し入れに対しては、担任や園長、主任が迅速に対応するように心がけています。また苦情申し立て方法や対応については、入園説明会で配布した重要事項説明書に記載しています。	
	40	定期的に園だよりやクラスだより等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	✓		えんだよりやクラスだよりを発行して、活動内容や行事予定について知らせています。	市のHPや広報ふじ掲載を活用してセンターの活動をPRしていくことを検討しています。
	41	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	✓		個人の記録等個人情報に関わるものは鍵付きキャビネットに保管しています。	
	42	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	✓		外国籍の保護者との情報伝達は、必要に応じて通訳派遣を依頼したり、文書を翻訳するなどの配慮をしています。	
	43	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		✓	昨年度から富士市手をつなぐ育成会にご協力頂き、2か所の障害者就労支援事業所に、こどもまつりへのキッチンカーを出店をしてもらって交流している。	いつもと違う環境が苦手な子どもも多くいることから、地域住民を行事等に招待することは難しいですが、地域の児童や児童施設だけでなく、障害者施設等とのつながりが持てるように今後も努力していきます。

非常時等の対応	44	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	✓		各マニュアルを策定し、職員全員にマニュアルを渡しています。プールでの溺水事故を想定した訓練や引き渡し訓練等を実施しています。職員向けマニュアルのため、保護者には入園のしおり等に発生時の対応について記載し説明しています。	
	45	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	✓		感染症発生時と災害時におけるBCPも策定から定期的に会議で発生に備えて見直しを行っている。毎月避難訓練を実施しています。	BCPは職員研修や訓練の実施し、マニュアル等の改訂を重ねていく予定です。
	46	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	✓		入園前のアセスメントや面接で聴き取り、健康調査票で確認しています。必要に応じて看護師が保護者と面接して状況確認しています。	
	47	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	✓		食物アレルギーのある子どもは医師の指示書の提出を必須とし、それを基にアレルギー食の対応をしています。また、栄養士も面談等に加わり、安全を確認したうえで給食提供をしています。	
	48	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	✓		昨年度安全計画を作成し、年度初めには安全計画を見直して園内の安全対策等のマニュアルの見直し改正を行いました。	
	49	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	✓		今年度マニュアルの改訂を実施しました。バス乗車時や園外行事等における子どもの安全確保のための注意事項を、おたよりや面談、懇談会等で伝えています。	
	50	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	✓		クラスごと記録に残し、毎月全職員に記録を回覧し、再発防止策について検討しています。	大きな事故につながらないように、引き続きヒヤリハット事例を基に迅速に対応していきます。
	51	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	✓		年度当初に虐待防止についてマニュアルの読み合わせをしています。また虐待防止委員会で研修内容等を確認したうえで、研修を行っています。虐待防止や権利擁護の外部研修に参加しています。	
	52	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、個別支援計画に記載しているか。	✓		身体拘束適正委員会で確認し、職員に周知しています。また、身体拘束が必要な場合には、保護者の同意を得たうえで個別支援計画に記載しています。	